



**青山ゆたか**  
**6月9日**  
**一般質問**  
**要**



**応援人口について**

**質問** 応援人口は地域課題を解決するキーワードとして近年浸透している「関係人口」の横手オリジナルで、今後のまちづくりにおいて重要な概念だ。今年度の新規事業である「応援人口との関係深化事業」はどのように進めていくのか？

**答弁** 東北大学と共同で応援人口の位置付け、役割など多様な視点で研究したい。応援人口との関係がもう一段深化するよう、取り組みを進める。

**質問** 応援人口の考えで展開されている各施策は首都圏などの大都市圏に目を向けがちだという印象を受ける。近隣、いわゆる「近場の応援人口」にも目を向け、政策に生かしていくのにも必要ではないか？

**答弁** 示唆に富んだ意見だ。もっと広い視点を持ちたい。

**質問** 応援人口の概念を押し進める市内の「横手暮らしアクシオンチーム」について、今年度の体制と活動の方向性を伺う。

**答弁** 全部局に対して募集を行い、20代〜40代の10名により構成している個々人の経験や知識を生かし、応援人口との関係性構築に取り組む。

**質問** 「地域おこし協力隊活用事業」の取組みについて伺う。

**答弁** 10月1日より着任いただけよう進める。隊員の活動により地域が活性化することが事業の意義だ。様々な方面から広く横手に関わっていただき、横手の魅力を引き出し、横手愛を育んでいただきたい。

**質問** ワークेशनについて市全体でどう取り組んでいくのか？

**答弁** さくら荘のコテージ5棟をワークेशन対応に改修した。「秋田ワークेशन推進協会」に加入して活用促進を図る。

**質問** ワークेशनの取組みについては「横手市観光振興計画」に記載がある。大森地域局だけではなく、商工観光部が連携して取り組むべきだ。

**答弁** 観光サイドから取り組むのも必要だと考えている。テ

レワークの視点からも含め市内宿泊施設とも一緒に発信していきたい。

**質問** 「(仮称)横手応援拠点」の狙いと進捗状況は？

**答弁** 県外で横手市出身者が経営する飲食店などに協力をお願いし、応援人口の心の拠り所として、つながりの機会を



△応援人口の力で地域活性化を!